2021.5.29. by Mutsu Nakanishi　from Kobe

祝　北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産登録へ

神戸新聞

23 社会　2021年(令和3年)5月27日

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産へ

農耕以前 豊かな定住生活

成熟社会 1万年以上継続

かつて学校教育などでは、縄文時代は人々が狩猟中心に食料を求めて、移動しながら暮らしたと教えてきた。その常識を覆したのが青森市の「三内丸山遺跡」だ。1992年から始まった発掘調査では、縄文前期から中期にかけて約170年間も定住していた痕跡が見つかった。

高さ約15㍍の迫力ある大型掘立柱建物や、550棟以上あったとみられる竪穴住居の一部が復元され、出土した土器や土偶とともに、縄文時代の雰囲気を伝えている。

墓や祈りの場も、縄文文化をひもとく上で欠かせない。秋田県鹿角市の「大湯環状列石」には、石を直径約40～50㍍の環状に並べた二つの遺構が残る。葬送や祭祀のための施設と考えられ、祈りのための道具も数多く出土した。

縄文時代前期から晩期の「入江貝塚」(北海道洞爺湖町)では、道内で捕れない狩猟・漁業の道具やアクセサリー、樹皮で編まれたポイニシシの牙製品が見つかっており、広く交易を行っていたこともうかがえる。

遺跡群は、津軽海峡を挟んで、同一の文化圏を形成していたという。各地で出土した動物の骨で作られたシェットなどは、自然を余すところなく利用した縄文人の暮らしぶりを示している。

青森市の三内丸山遺跡で発掘された、樹皮で編まれたポシェット

北海道洞爺湖町の入江貝塚（いずれもJOMON ARCHIVES提供）

広く、さまざまな時代をたどることができる。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、人類史上まれな農耕以前の定住生活や、豊かな1万年遺跡の年代は紀元前1万3000年～同400年と幅

（1面参照）

2021年(令和3年)　5月27日(木曜日)　新聞各紙朝刊

23 社会　2021年(令和3年)5月27日

神戸新聞

農耕以前 豊かな定住生活

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産へ

…な森や海産物に恵まれ、成熟した社会が1万年以上続い…遺跡群」は、人類史上まれな農耕以前の定住生活や、豊…17遺跡の年代は紀元前1万3000年～同400年と幅…できる。

（1面参照）

北海道・北東北の縄文遺跡群

成熟社会 1万年以上継続

かつて学校教育などでは、縄文時代は人々が狩猟中心に食料を求めて、移動しながら暮らしたと教えてきた。その常識を覆したのが青森市の「三内丸山遺跡」だ。1992年から始まった発掘調査では、縄文前期から中期にかけて約1700年間も定住していた痕跡が見つかった。

高さ約15㍍の迫力ある大型掘立柱建物や、550棟以上あったとみられる竪穴住居の一部が復元され、出土した土器や土偶とともに、縄文時代の雰囲気を伝えている。

墓や祈りの場も、縄文文化をひもとく上で欠かせない。秋田県鹿角市の「大湯環状列石」には、石を直径約40～50㍍の環状に並べた二つの遺構が残る。葬送や祭祀のための施設と考えられ、祈りのための道具も数多く出土した。

縄文時代前期から晩期の「入江貝塚」（北海道洞爺湖町）では、道内で捕れないイノシシの牙製品が見つかっており、広く交易を行っていたこともうかがえる。

遺跡群は、津軽海峡を挟んで、同一の文化圏を形成していたという。各地で出土した動物の骨で作られた狩猟・漁業の道具やアクセサリー、樹皮で編まれたポシェットなどは、自然を余すところなく利用した縄文人の暮らしぶりを示している。

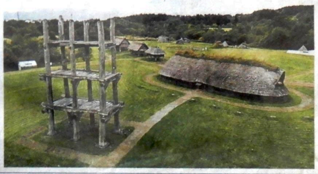
青森市の三内丸山遺跡で発掘された、樹皮で編まれたポシェット

北海道洞爺湖町の入江貝塚（いずれもJOMON ARCHIVES提供）

「縄文遺跡群」世界遺産へ

北海道・北東北 三内丸山など勧告

ユネスコ諮問機関



青森市の三内丸山遺跡（JOMON ARCHIVES提供）

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関は26日、青森市の三内丸山遺跡など17遺跡で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」（北海道、青森、岩手、秋田）を世界文化遺産に登録するよう勧告した。農耕に移行せず、狩猟などを基盤としたまま定住した縄文時代の人類の生活実態を示す貴重な物証として世界的に認められた。

（23面に関連記事）

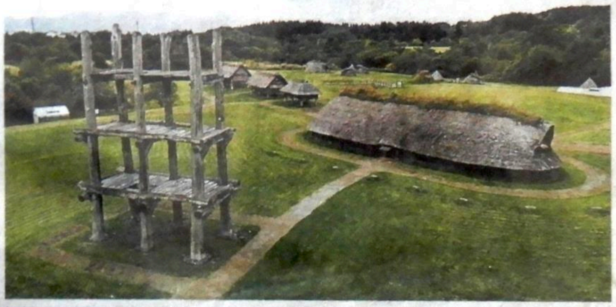
7月16～31日にオンライン開催されるユネスコ世界遺産委員会で正式に決まる見通し。国内の世界文化遺産として先史時代は初めてで最古となる。自然遺産候補の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」（鹿児島、沖縄）にも今月10日に登録勧告が出た。2件がともに登録されることになり、日本の世界遺産は文化20、自然5の計25件となる。

17遺跡は縄文時代を代表する大規模集落跡の三内丸山遺跡のほか、北海道伊達市の北黄金貝塚や岩手県一戸町の御所野遺跡、秋田県鹿角市の大湯環状列石など。三内丸山と大湯環状列石は国の特別史跡、15遺跡は史跡に指定されている。

諮問機関は勧告で「定住社会の発展段階やさまざまな環境変化への適応を示している」と評価した。

当時の北海道・北東北は土器や狩猟道具、埋葬方法などが共通するひとまとまりの地域と考えられている。豊かな食料資源を背景に狩猟や漁労、採集による定住生活が1万年以上続き、17遺跡がこの間の変遷を網羅しているとして政府は2020年、一括で世界遺産に推薦した。

「縄文遺跡群」世界遺産へ
北海道・北東北 三内丸山など勧告
ユネスコ諮問機関



青森市の三内丸山遺跡（JOMON ARCHIVES提供）

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関は26日、青森市の三内丸山遺跡など17遺跡で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」（北海道、青森、岩手、秋田）を世界文化遺産に登録するよう勧告した。農耕に移行せず、狩猟などを基盤としたまま定住した縄文時代の人類の生活実態を示す貴重な物証として世界的に認められた。

（23面に関連記事）

7月16～31日にオンライン開催されるユネスコ世界遺産委員会で正式に決まる見通し。国内の世界文化遺産として先史時代は初めてで最古となる。自然遺産候補の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」（鹿児島、沖縄）にも今月10日に登録勧告が出た。2件がともに登録されることになり、日本の世界遺産は文化20、自然5の計25件となる。

17遺跡は縄文時代を代表する大規模集落跡の三内丸山遺跡のほか、北海道伊達市の北黄金貝塚や岩手県一戸町の御所野遺跡、秋田県鹿角市の大湯環状列石など。三内丸山と大湯環状列石は国の特別史跡、15遺跡は史跡に指定されている。

諮問機関は勧告で「定住社会の発展段階やさまざまな環境変化への適応を示している」と評価した。

当時の北海道・北東北は土器や狩猟道具、埋葬方法などが共通するひとまとまりの地域と考えられている。豊かな食料資源を背景に狩猟や漁労、採集による定住生活が1万年以上続き、17遺跡がこの間の変遷を網羅しているとして政府は2020年、一括で世界遺産に推薦した。

2021年(令和3年)　5月27日(木曜日)　神戸新聞朝刊一面より

2021年（令和3年）5月26日（水曜日）　北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産へ

イコモスが決定した夜日本は祝いのスーパームーン

皆既月食、3年ぶり観測

「スーパームーン」と重なる

青森県八戸市で見られた
皆既月食＝26日午後8時19分

月が地球の影にすっぽりと入る皆既月食が26日夜、3年ぶりに日本で観測された。多くの地域で曇りや雨だったが、月が地球に近づいて大きく見える「スーパームーン」という状態と重なり、晴れた場所では午後8時9分から約20分間、春の夜の珍しい天体ショーとなった。

皆既月食は、太陽からわずかに届く光に照らされ、月が真っ暗にはならず赤黒い「赤銅色」に見えるのが特徴。国立天文台によると、月食の始まりは午後6時44分で、一部地域では既に欠けた状態で月が昇った。

次に日本で皆既月食が見られるのは2022年11月8日となる。前回は18年7月に観測された。日本でスーパームーンと重なったのは1997年9月以来。

皆既月食は太陽、地球、月が一直線に並んで起きる。

兵庫では厚い雲、ため息

姫路市山野井町の男山配水池公園では、東南東に位置する姫路城と皆既月食を写真や映像に収めようと、日没後から約40人がカメラを手に集まった。だが、月は厚い雲に覆われ姿は見えず。大半は皆既食が終わる午後8時28分まで待ち続けたが、結局「赤い月」を見ることはかなわず、小さなため息があちこちで漏れていた。

5月28日（金曜日）神戸新聞朝刊「正平調」はこんなコラムで世界遺産決定を祝った

神戸新聞

2021年（令和3年）
5月28日
金曜日

正平調

人類は進歩なんかしていないーと芸術家、岡本太郎さんの語録にある。「縄文土器の凄（すご）さを見ろ。ラスコーの壁画だって、ツタンカーメンだって、いまの人類にあんなもの作れるか」◆言われてみれば、縄文土器には不可思議な形のものが多いし、確かに前衛的である。岡本さんはそこに狩猟民ならではの躍動する感性を見たのだろう。その人が手がけ、大阪万博のシンボルとなった「太陽の塔」もどこか縄文芸術の香りをまとっている◆いま再びの〝縄文ブーム〟を予感させるうれしいニュースが届いた。青森市の三内丸山（さんないまるやま）遺跡などの「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されるという◆遺跡には、定住の痕跡があった。土器や土偶、アクセサリーも多く出土している。縄文人は獲物を追ってさすらっていたというこれまでの定説を覆し、世界の先史でもまれにみる豊かな文化を育んでいたらしい◆三内丸山遺跡から発見されたという樹皮で編まれた「ポシェット」の写真を、きのうの本紙で見た。腰にぶらさげ、クルミやクリを拾っていたのか、おしゃれな縄文人の暮らしが目に浮かんでくるようで心躍る◆縄文文化に衝撃を受けて語った岡本さんの言葉を、まねしてつぶやいてみる。「こんな日本があったのか」

2021・5・28

皆既月食、3年ぶり観測

「スーパームーン」と重なる

青森県八戸市で見られた
皆既月食＝26日午後8時19分

月が地球の影にすっぽりと入る皆既月食が26日夜、3年ぶりに日本で観測された。多くの地域で曇りや雨だったが、月が地球に近づいて大きく見える「スーパームーン」という状態と重なり、晴れた場所では午後8時9分から約20分間、春の夜の珍しい天体ショーとなった。

皆既月食は、太陽からわずかに届く光に照らされ、月が真っ暗にはならず赤黒い「赤銅色」に見えるのが特徴。国立天文台によると、月食の始まりは午後6時44分で、一部地域では既に欠けた状態で月が昇った。

次に日本で皆既月食が見られるのは2022年11月8日となる。前回は18年7月に観測された。日本でスーパームーンと重なったのは1997年9月以来。

皆既月食は太陽、地球、月が一直線に並んで起きる。

兵庫では厚い雲、ため息

姫路市山野井町の男山配水池公園では、東南東に位置する姫路城と皆既月食を写真や映像に収めようと、日没後から約40人がカメラを手に集まった。だが、月は厚い雲に覆われ姿は見えず。大半は皆既食が終わる午後8時28分まで待ち続けたが、結局「赤い月」を見ることはかなわず、小さなため息があちこちで漏れていた。

三内丸山縄文発信の会「縄文ファイル」　4月号　　2011.4.1.

東日本大震災お見舞い と 北の縄文　世界遺産登録への応援メッセージ

「 神戸から 日本人の心のふるさとへ 」

By　三内丸山縄文発信の会会員　　兵庫県神戸市　*Mutsu Nakanishi*

東北関東大震災の未曾有の災害に遭遇された皆様に心からお見舞い申し上げます。
かつて歩いた縄文のふるさとでの大地震に気が気ではありません。
縄文文化を育んだこのフィールドが、被災された皆様のこころを癒し、
一日も早く元気になられますことをお祈りします。

「日本人のこころを映すストーンサークル」「戦いを知らない心やさしき縄文人」
に憑かれて１０数年、縄文のフィールドに立つのが楽しみな縄文 walk です。
縄文人は自然の恵みを受けながら素晴らしい自然の景色の中で縄文の文化を育んだ。
その景色を見るだけでもすばらしい。
この縄文ワールドを話すのに、私は「縄文帰り」という言葉をよく使う。
一歩足を踏み入れれば、そこは素晴らしい自然の景観と心の安らぐ縄文の世界。
高台に座って、ほっと一息、周りを眺める「縄文がえり」。私一番の縄文の楽しみです。
　六本柱はどうやって引っ張ってきたのだろう？　環状配石墓と墓の道に今にも声が聞こえてきそうな土偶。
　ここでどんな祭りが行われたのだろうか？　栗・どんぐりの栽培と酒造りとは？
　手に持った翡翠の玉のひんやりとした感触と黒曜石　そして津。
　この集落交易のルートは見晴らす森を越えて、どこまで広がっているのだろう？　などなど・・・・・。
　また、一般の人たちに混じって「墓の道の意味を考えている」と遺跡のジオラマをじっと眺める学者さんの姿が強く印象に残っています。
発掘された遺物・遺構を前に、活き活きと語られる「縄文の暮らしと知恵」に眼を輝かせ、頭をひねり、質問し、みんなで考えた「三内丸山縄文人の生活・縄文ワールド」。市民・訪問者の参加・体験型遺跡が 三内丸山の熱気・魅力。
そんな遺跡作りへの参画が認められての文化庁長官賞表彰。おめでとう。
世界遺産登録運動のさらなるエネルギーになるでしょう。
　でも、発掘が進み、遺跡の解明・整備が進むにつれ、そんな生の話が聞ける機会もなくなってきました。
時遊館や収蔵庫展示室などが整備され、遺跡の見学も遺構や遺物の説明解説が中心。
「縄文人の生活」を思い浮かべての語らいの熱気が薄らいで、「ちょっと距離感が出てきたなあ」と感じています。
かつて、自分がそうであったように、眼前に広がる縄文の素晴らしいフィールドの中で、縄文人たちの生活や知恵そして不思議が語り合え、自分とのつながりが体験できる場であってほしい。
北海道・北東北の縄文遺跡群が「『心優しき縄文人』『日本のこころのふるさと縄文』を体験できる」そんな身近な故郷として世界遺産になってほしい。そんな夢を描いています。
　私の住む関西では名の知れた縄文遺跡はそれほどないのですが、ここでも素晴らしい自然の景色と心安らぐ場が用意されています。関西で開催された「縄文塾」に縁を発した同好の人たちのささやかな縄文勉強会が「関西に縄文の灯を」ともう6年近く続いています。北海道・北東北の縄文の世界遺産登録が　さらに「現代の縄文図書」へと全国に広がることをも期待しています。

2011. 3. 19.　By　三内丸山縄文発信の会会員　　兵庫県神戸市　中西睦夫（６７歳）

1911年3月　三内丸山縄文の会の「縄文ファイル」4月号に東日本大震災のお見舞いと日本の縄文を世界遺産にと応援メッセージを送って10年。本当にうれしい北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録決定の報。おめでとう。

ても　今また日本はコロナ禍の苦難の中にいる。
　心優しき縄文人
　日本の心のふるさと縄文
みんなでスクラム組んで
この難局を乗り越えましょう

◎　2011. 3. 19.　三内丸山縄文の会「縄文」に送ったメッセージ
東日本大震災お見舞いと
北の縄文 世界遺産登録応援メッセージ
■「神戸から日本人の心のふるさと」へ
2011.3.19.
https://www.infokkkna.com/ironroad/prezen/201104sekaiisan.pdf
■　縄文の心を映すストーンサークル
https://www.infokkkna.com/ironroad/prezen/2008jyomon/jyomonslide.htm